

2010年3月18日(木)

報道関係者各位

笹川平和財団

## 【個別取材のご案内】

### アジア 10ヶ国より新型インフルエンザの政策責任者が来日します

笹川平和財団が開催する国際会議『アジアにおけるパンデミックの教訓と示唆：多角的な視点から』（3月23日、於：ホテルニューオータニ東京）に出席するため、アジア10ヶ国より新型インフルエンザの政策責任者が来日します。これに伴い、以下の方々への個別取材をご案内します。

- P・ニイマダワ（モンゴル科学アカデミー会長/国立インフルエンザセンターアドバイザー）
- レミジオ・M・オルヴェダ（フィリピン熱帯医学研究所長）
- ピーター・ホービー（オックスフォード大学ハノイ臨床研究拠点代表）
- ロジ・MD・サアド（マレーシア首相府国家安全委員会主席次官補）
- スパミット・チュンスティワット（タイ保健省疾病対策局新興感染症課上級医療官）
- ウォラヤ・ルアン・オン（タイ保健省疾病対策局新興感染症課上級医療官）
- チャン・ティン・ズヨン（ベトナム保健省環境予防医療局副局長）
- カンチット・リンパカンジャンラット（WHO インドネシア代表）
- ジャック・ヨーグマン（アジア開発銀行地域・持続的開発局貧困削減ジェンダー・社会開発部リーダー）

北米で新型インフルエンザ A (H1N1) が発生してまもなく1年を迎えようとする中、上記の関係者はいずれも感染症や危機管理の責任者として、アジア域内で中心的な役割を果たしています。新型インフルエンザに関する各国の経験や課題を知る上で貴重な機会となることが期待されます。

**上記の関係者のいずれかに対し、個別取材をご希望の方は以下の担当までご連絡下さい。取材の日時を調整します。**

【連絡先】 笹川平和財団総務部情報公開担当 南里(なんり)  
電話：(03)6229-5438 080-1249-7536（携帯）  
Fax：(03)6229-5473 Email：[spfpr@spf.or.jp](mailto:spfpr@spf.or.jp)

笹川平和財団は3月23日（火）に東北大学大学院医学系研究科と共催で国際会議『アジアにおけるパンデミックの教訓と示唆：多角的な視点から』を開催します。シンポジウムへは、ASEAN諸国の感染症や危機管理の政策責任者・ジャーナリストなど約30名の海外ゲストを招待するほか、日本からはこの分野で著名な研究者である押谷仁東北大学教授、武見敬三東海大学教授らが講演します。新型インフルエンザの問題をアジア地域共通の非伝統的な脅威と捉え、医学・疫学のみならず経済、科学技術、安全保障といった分野横断的かつグローバルな視点から分析することで、域内連携や危機管理のあり方など今後の対応方法や戦略について考察していきます。シンポジウムの詳細については財団のWeb site ([http://www.spf.org/event/article\\_5750.html](http://www.spf.org/event/article_5750.html)) をご覧下さい。